

ひろげて、まいて、あらわれる 絵巻の世界

国立国会図書館東京本店 展示室 2024. 10. 01～11. 09



「ひろげて、まいて、ひろげて、まいて」—それを繰り返してあらわれるのは、雅な王朝貴族の世界か、風変りな姫君や、空を飛ぶ米俵が登場する世界か。

いつの間にか、鬼や化け物が棲む異界へと引き込まれているかもしれない。「絵巻」の多くは、人の手で写し伝えられてきたが、写す目的は様々で、有名な絵巻と同じ物を所有したいと思う人もいれば、研鑽のために描き写す絵師もいただろう。

そうして絵師の腕や個性も相まって、実に多様な写し(摸本)が生まれてきた。当館が所蔵する多くの「絵巻」の多くは、そうして写し伝えられてきたものである。

本展示で、会期を3つに分けて毎回全面的な展示替えを行い、当館が所蔵する「絵巻」のうち、「約30タイトル」から「90以上の場面」を展示している。



第1章 絵巻で楽しむ物語

「平治物語絵巻」は、鎌倉時代(13世紀後半)の絵巻の紙本着色で、「平治の乱」に取材した軍記物語「平治物語」を絵巻化したものである。



第2章 模写された絵巻のみどころ

摸本ならではの楽しみ方、異界の独特な描かれ方など、物語の内容にとどまらない“絵巻の魅力”が紹介されている。